



広報こよし



発行

署警察莊本利由
所駐在吉子

☎ 22-0310

夏の交通安全運動

～子供と高齢者の交通事故防止～

交通ルールの遵守と安全運転

本格的な行楽期を迎えるに当たり、例年「スピードの出し過ぎ」や「飲酒運転」に伴う交通事故が多発する傾向があります。

☆運動期間☆

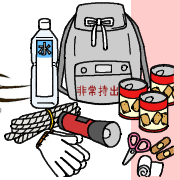
8月1日から8月10日までの10日間

☆運動の基本☆

子供と高齢者の交通事故防止 ～歩行者ファースト意識の醸成～

☆運動の重点☆

- ◎ 飲酒運転等の危険運転の防止
- ◎ すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい使用の徹底
- ◎ 若年運転者の交通事故抑止
- ◎ 横断歩行者の交通事故防止



クマに注意！！



登山計画
(QRコード)



秋田県内ではクマの目撃情報が多数寄せられており、クマによる人身被害も発生しています。

▲必ず2人以上で行動し、単独行動を慎みましよう。

▲鈴、笛、ラジオなどを身につけ、音を出しながら行動しましよう。

▲子グマの近くには親グマがいるので、決して近寄らないでください。

▲もしクマに出会ってしまったら、あわてずゆっくり後ろにさがり、静かにその場から離れましよう。

- 8月30日から9月5日までは防災週間です。
日頃から自然災害に備えて準備しておきましょう。
- 【地震が起きたら】
- ① 自身の安全確保（倒れそうな家具から離れましょう。）
 - ② 安全な場所に避難（崖崩れ、落下物に注意して避難しましょう。）
 - ③ 正しい情報の入手（ラジオなどで災害状況を確認しましょう。）
- 【洪水について】
- ① 早めの避難の心がけ（防災情報を確認し早めに避難しましょう。）
 - ② 洪水時の避難は要注意（避難は徒歩で。無理せず高所で救助を待ちましょう。）
- 

9月1日は「防災の日」

～防災は日頃の備えとみんなの協力～



特殊詐欺被害防止

警察、市役所、金融機関からの電話でも

キャッシュカードは渡さない!!

暗証番号は絶対に教えない!!

- ★ ニセ警察職員、ニセ市役所職員、ニセ金融機関職員からの電話が増えていきます！
- ★ 職員がキャッシュカードを取りに行ったり、暗証番号を聞くことは絶対にありません！
- ★ キャッシュカードは渡さない！
暗証番号は教えない！
- ★ 不審な電話はすぐに切り、メールは無視する！

二七者注意！



二七警察職員

9月1日は「防災の日」（8月30日～9月5日は防災週間）

昭和57年5月11日、国民が災害についての認識を深め備えを充実することにより、災害の未然防止と被害の軽減を図ることを目的として、9月1日を「防災の日」、8月30日から9月5日を「防災週間」にすることとしました。

日本海沖に地震の空白域を有する本県においては、いつ発生してもおかしくない大地震と津波から身を守るために、「自分の身は自分で守る。」という意識を、県民一人一人が強く持つことが重要です。

～防災は、日頃の備えと、みんなの協力～

【津波編】

東日本大震災では、15,000人を超える死者のうち、9割の方が津波の犠牲になっています。昭和58年5月26日に発生した日本海中部地震でも県内死者83人のうち、9割を超える79人の方が津波の犠牲になっています。

※ 津波に十分な警戒を

- 大きな揺れを感じたら津波に警戒
- 岩場、岸壁、防波堤から避難
- 津波情報をテレビ・携帯ラジオで確認
- 津波警報が出たら直ちに高台に避難
- 近くに高台がなければ、丈夫な高い建物で、より高い階へ避難



防災週間

【地震編】 ～ 地震が発生したら

① 自分の身の安全を確保しましょう

- ・ テーブルの下などに身を隠し、まずは自分の身の安全を確保
- ・ 落下しやすいもの、ガラス窓などから離れる
- ・ ドアや窓を開け、出口を確保

② 火災を防ぎましょう

- ・ 火の元の安全を確認
- ・ 火が出たら、「火事だ」と叫んで協力を求め、慌てず消火

③ 安全な場所へ避難しましょう

- ・ 家庭内で事前に決めた避難場所へ
- ・ 避難は徒歩、必ず靴を履き、ヘルメットなどをかぶる
- ・ 荷物は、必要最小限度
- ・ 狭い道を避け、塀等に近寄らない

④ 正しい情報を入手しましょう

- ・ テレビ・ラジオ、防災広報で確認

⑤ 協力して救出、救護しましょう

- ・ 地域ぐるみで協力し合い、軽いケガなどはお互いに応急措置

⑥ 山崩れや崖崩れ、建物の倒壊又は落下物に注意しましょう

- ・ 余震にも注意

⑦ 自動車運転中に地震が起きたら

- ・ 道路の左側に寄せてエンジンを切って駐車
- ・ カーラジオで地震情報を聞く

【風水害編】 ～ 強風・大雨・雷に注意

① 気象情報を確認しましょう

- ・ ラジオ、電池を備えておく
- ・ 防災広報を聞く

② 早めの避難を心がけましょう

- ・ テレビ、ラジオ等の防災情報を確認し、正確な情報を入手
- ・ 速やかな行動、早めの避難を心がける

③ 洪水時の避難は注意しましょう

- ・ 避難は徒歩
- ・ 水深が腰まであるようなら無理は禁物。高所で救助を待つ
- ・ ひもつきの運動靴をはき、長い棒を杖がわりにして安全を確認
- ・ 子供から手を離さない
- ・ はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難

④ 雷に注意しましょう

- ・ 慌てて外に出ない
- ・ 安全なのは車や建物の中、遠ざかるまで待機
- ・ 姿勢を低く
- ・ 平地では姿勢をなるべく低くし、大人数の場合は一箇所に集まらない
- ・ 配電線から離れる
- ・ 避雷針のない家では、壁や柱に寄りかからない
- ・ 電灯線、電話線、アンテナ等の引き込みから離れる